

## 入選

### だれかのためにできること

岐阜県 金竜小学校

6年 望月かれん

「今すぐに教えてください。」

この言葉が、最初のかけ声でした。

私は、今年の夏休みに金竜小学校の代表二人で中濃消防署へ行きました。具体的には、水と発熱剤により温められる非常食を自分で作って食べたり、ひなん道具として使える物や、準備しておくの良い物、備えておくの良い物などをグループワークで話し合ったり、はしご車に乗って、30メートルの高さを実際に体感したりもしました。

中でも私がお話の中で一番心に残っていることは、令和6年1月1日に起きた、能登半島地震についての話です。私が住んでいる地域ではあまり被害はなかったけれど、1月1日に家族みんなでテレビを見ていたら、番組がすべて地震のニュースになり、「高台ににげてください」「決して引き返したり、立ち止まったりしないでください」と、何度も何度も呼びかけがくり返されていたことを思い出します。

能登半島地震が発生してすぐ、中濃消防組合から消火小隊、救助小隊、後方支援隊の合わせて11人がきんきゅう消防援助隊として出動し、4日もかけて石川県の被災地へ向かったそうです。その後、岐阜県大隊と合流し、被災地に必要な物資を送ったり、寸断されてしまった道路の先にある倒壊建物現場へロープでわたりながら向かい、困っている人はいないか、にげおくれた人はいないかを自分の目で確かめに行ったりと、各隊で連携して行動しました。私は、困っている「だれか」を助けるために、命をかけて全力をつくす消防隊の姿を見せてもらったような気がしました。

消防隊がやっていることは、私には絶対できないことだと思いますが、非常時は消防隊の人たちが今まで訓練してきたことが出てくるところだと思いました。道路がひびわれていたりして、道がない中で、消防隊としてではなく、自分が「助きたい!」「一人も見のがしたくない」と言う心が伝わってくるような行動で、「困っているだれかのためにできること」を考えて動いているのだな、と思いました。

能登半島地震のお話では、おどろくような写真もたくさん見せてもらいました。例えば、建物が倒れていたり、部屋の中が崩壊していたり、道路に段差や大きなあなが開いている写真が次々出てきました。私はこの写真を見て、一步でも足をふみはずしたら落ちてしまいそうで、もし私が消防隊の人で、被災地へ行き崩壊現場で救助を行うことになったら、きょうふで一步もふみ出せないし、ふみ出そうとする勇気も助ける勇気もないと思いました。

私も、消防隊のようにためらうことなく、困っている人を助けられるようになりたいです。

「今すぐ助けますね。」

勇気を持って、このひとことが言えるようになりたいと思います。